

24 老人保健施設との「通院透析」地域連携クリニカルパスを導入して

諏訪赤十字病院 透析センター

一ノ瀬あゆみ 五十嵐美都子
立花直樹 笠原寛 小口寿夫

I はじめに

慢性透析患者の高齢化に伴い、合併症の併発、ADLの低下、自宅での介護困難、透析送迎困難などが増加している。急性期病院で退院可能な患者の受け入れ先としては、在宅または療養型病床のある病院への転院が考えられる。在宅での介護が困難な場合、居住地近くに転院先がないことが多い。当院では在宅での介護が困難な維持透析患者の受け入れ先の施設をMSW中心に検討した。その結果、近隣の老人保健施設（以下老健施設）に受け入れが可能になった。そこで当センターでは、透析患者の老健施設入所を機に、老健施設と当センター間における「通院透析」の地域連携クリニカルパス（以下連携パス）に取り組んだ。

II 経過

- H18年5月 透析患者老健施設入所決定。
老健施設の職員、当院スタッフと数回のミーティングを行った。
- 6月 老健施設の職員を対象に、血液透析療法について、また、具体的な透析患者のケアや注意点などについて、老健施設に赴き、講演会、勉強会を計2回行った。
- 9月 老健施設との通院透析の連携パスを作成

- 10月 連携パス導入に向けて、老健施設の職員、当院の退院コーディネーター、透析師長でミーティングを行った。
- 11月～連携パスを使用中（現在まで5名）

III 連携パス作成にあたり工夫した点

- 1、透析療法には終了といった期限がないため、連携パスは一週間単位として、週ごとに1枚のパスを使用することにした
- 2、非透析日と透析日（通院日）とを色分けし、容易に識別できるようにした
- 3、透析曜日や回数に合わせて数種類のパターンの連携パスを作成した
- 4、表現方法を「目標」「項目」「シャント音：良・悪」と平易で医療者以外にも抵抗の少ないものにした
- 5、患者の連絡ノートに細かく書かれていた内容を連携パスの項目に取り入れた
- 6、緊急連絡先を明記した

一ノ瀬 あゆみ 諏訪赤十字病院透析センター

〒392-8510 諏訪市湖岸通り 5-11-50 0266-52-6111

IVパスの実際

《スタッフ用パス》

施設名称	施設住所	施設電話番号	施設名称	施設住所	施設電話番号	施設名称	施設住所	施設電話番号
...

《患者用パス》

老人保健施設との連携パス 患者さま用

透析センターで行うこと	透析の日に施設ですること	透析のない日
お帰りの日に会うように、透析のための準備をお願いします。 二番車などあって透析を変更したい時は、電話でお知らせください。	朝、8時にペナルスを履き足し、靴を履き、10時までに透析センターへお越しください。	いつもお通りにお越しください。
透析の日のみは、お帰りの日に会うように、透析のための準備をお願いします。	透析の日のみは、お帰りの日に会うように、透析のための準備をお願いします。	透析の日のみは、お帰りの日に会うように、透析のための準備をお願いします。

SuwaRedCrossHospital

V 連携パスの運用方法

患者用パス…老健施設入所決定後、患者または家族に渡し説明する

スタッフ用パス…老健施設と当センターを患者と共に往復する。一週間使用後は当センターで保管する

VI 連携パスを使用しての感想

《老健施設》

1 通院透析患者が入所した当初から連携パスを使

用していたので、連携パスを使用することに対する混乱や抵抗感はない

2 老健施設に看護師が少なく、透析患者へのケアに落ちがないか（不十分でないか）と不安はあるが、連携パスに沿って行えばいいと思うので安心できる

《透析センター》

- 1 観察項や処置のものが少なく使用しやすい
- 2 チェックボックスのサインののれ、バリエアンスの有無のチェックのものがあ
- 3 バリエアンス分析がされていない

VII 現状と課題

老健施設に透析患者が入所した当初から、連携パスを使用したため、記録に対する抵抗はすくなかった。老健施設の職員にとって連携パスを使用することで、透析患者に特有な注意点やケアに対して、不十分ではないかと思う不安な気持ちは緩和された。連絡ノートに文章で記載していた長い記録をパスに取り入れることで、連絡ノートの記録が短くなった。パスのサインの記入のれがあること、バリエアンス分析がされていないことなど、連携パスの運用面で見直しが必要な部分もある。

VIII まとめ

当センターと老健施設とで通院透析患者の連携パスが運用できているのは、老健施設の職員の理解と協力によるところが大きいと思われる。老健施設の職員に理解が得られた理由の一つとして、透析患者の老健施設入所前、連携パスの運用前に相互の施設間での十分な話し合いの機会を設けることが出来たことや、老健施設に赴き血液透析療法についての説明を行ったことで、老健施設職員の透析にたいする不安を緩和し、相互施設間での良好なコミュニケーションが得られ、信頼関係を築けたことが大きく影響したと考える。

IX 参考文献

田城孝雄他：特集スムーズな連携を実現する 地域連携
クリニカルパス 日本看護協会機関誌V o 1. 58
2006